

■ 修士論文要旨

日本における中小企業会計基準の開発に関する一考察

A Study of the Development of Accounting Standards for Small and Medium-Sized Enterprises in Japan

神奈川大学大学院 経営学研究科
国際経営専攻 博士前期課程

刘 念

LIU, Nian

中小企業は必要な資金を調達して事業経営を行っている。このような中小企業は事業活動の成果とその効率性を明確にすることが求められる。従って、中小企業の経営活動の実態を正確に把握するために、中小企業会計基準が欠かせない。既存の中小企業会計基準について、日本の中小会計指針も、中小企業版国際会計基準も共に、大企業会計基準を簡略され、策定された。この状況を踏まえ、「中小会計要領」は国際会計基準の影響が懸念される中で日本独自の重要な中小企業会計基準として生まれた。

本論文では、日本における中小企業と中小企業会計基準の現状について紹介したうえで、上述の2つの中小企業会計基準を併存する現状に対してそれぞれの特徴と問題点を指摘した。また、日本における国際会計基準の導入の問題点を何かを探って、中小企業に対する国際会計基準は適合するものであるかを検討し、「中小会計要領」の制定と普及を考察することによって、日本の会計制度における中小企業の会計のあり方を明らかにすることとした。

本論文における研究方法では、中小企業会計基準と国際会計基準に関する資料を収集して、中小

企業版IFRSの問題について検討した。そして、「中小会計指針」と「中小会計要領」の体系を分析し、日本における中小企業会計基準の適用のあり方を考察した。

本論文は四章十二節で構成されている。

まず第1章では、中小企業会計基準の機能と開発について解明した。本章は中小企業概念と人手不足、設備老朽化、高齢化などの現状及び今後の課題を検討し、中小企業財務諸表の目的と中小企業会計の必要性を説明した。ここでは中小企業独自の会計基準の機能と会計基準設定の重要性を明らかにしたうえで、日本における中小企業の会計をめぐる動きと中小企業の会計に関する3つの研究会報告書の違いを明らかにし、中小企業会計基準の発展を詳述した。

次に第2章では中小会社会計指針策定と内容について述べた。本章では第1節に中小指針の背景、公表経緯と作成方針を説明したうえで、中小会計指針は三つの研究報告書からどのような影響を受けたのかを明らかにした。第2節は中小会計指針の適用対象、「シングルスタンダードの立場をとっている」、「税法基準に拠った処理が限定的に認め

られている」、「会計基準を強制していない」の特徴、中小会計指針の構成と2006-2015年毎年の改訂内容について紹介した。第3節の中小会計指針適用と課題では、中小会計指針の「抛ることが望ましい」と「一定の水準を保ったもの」の目的を示し、それをもたらす影響と棚卸資産、税効果会計、有価証券及び優遇措置などの問題点を考察した。

そして、第3章では、中小企業版IFRSの公表経緯とその性格について論じた。ここでは、第1節で、国際会計基準形成背景、経緯、特質と最近の動向について調べ、日本の会計基準との比較を行った上で、国際会計基準の課題を検討した。第2節で中小企業版IFRSの策定経緯（討議資料、公開草案）の内容を検討し、第3節で中小企業版IFRSの認識・測定における簡素化と除外、IFRSとの相違を検討したうえで、中小企業版IFRSの導入実態を分析した。そして、中小企業会計の国際動向を考察し、中小企業版IFRSが公正妥当と認められる会計基準として承認されないと、IFRS自身の高いハードルの原因で日本への適用が困難なことを明らかにした。

最後に第4章では、中小会計要領の普及と展望について考察した。第1節で中小会計要領の策定経緯を説明し、総論、各論、様式集を構成された要領の体系を述べた。第2節で中小会計要領の適用対象、中小会計指針と検討アプローチの方法、目的、税法との関係、国際会計基準との関係などの項目から比較、考察し、中小会計要領の特徴を明確にした。また、中小会計要領、中小会計指針、中小企業版IFRSとの関係と適用状況を明らかにした。さらに第3節に中小会計要領について先行研究において提起されたいくつかの課題を検討し、中小企業会計のあり方について考察した。そこでは、今後の日本の中小企業会計がどのような方向へ向かうのかを展望する中で、中小会計要領の普及と活用の必要性を明らかにした。